

日時：2023年9月17日（日）12:00～13:00

場所：東京大学駒場第2キャンパス ENEOS ホール

議長：麦倉泰子会員

1. 審議事項

第1号議案 2022年度事業報告および会計報告

第2号議案 2023年度事業計画案および予算案

第3号議案 選挙結果および第11期理事会について

第4号議案 合理的配慮等に関するガイドライン1.0について

2. 報告事項

1 2023年度第20回大会について

2 編集委員会から『障害学研究』について

3 国際委員会から

4 20周年記念事業実行委員会から

5 2024年度第21回大会について

6 その他

■ 1 審議事項

■ 第1号議案 2022年度事業報告および会計報告

①2022年度事業報告

・理事会：第41回理事会 2022年4月9日（土）Zoom

第42回理事会 2022年7月2日（土）Zoom

第43回理事会 2022年7月30日（土）Zoom

第44回理事会 2022年12月17日（土）Zoom

・学会大会・総会：2022年9月17日（土）対面およびオンライン開催（廣野俊輔大会長、同志社大学）

・学会誌：『障害学研究』第18号の編集・発行、第19号の編集

・理事会声明：「日本学術会議発出 内閣府『日本学術会議の在り方についての方針』（令和4年12月6日）

について再考を求めます」への賛同声明 2023年1月25日

・国際委員会：エッセイコーナー（障害学の風）の開設など、障害学会の活動の国際化推進事業

・20周年記念事業：

出版WG：20周年記念誌（『障害学研究』20号）構想発表会の開催 2023年2月4日、9日、14日

20周年シンポ企画WG：開催趣旨・登壇者等の検討を行った。

・合理的配慮ガイドラインWG：障害学会合理的配慮ガイドラインの検討を行った。

・会員数の動向

2022年4月1日現在 552

2023年4月1日現在 547

・入退会

2022年度 入会者数28 退会者数33（うち滞納退会19件）

②2022 年度会計報告

2022 年度収支計算書

2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで

科目	予算	決算	合計
I 収入の部			
会費収入	2,656,000	3,184,489	
第 19 回大会 収入	200,000	535,000	
助成金収入 (三菱財団)	0	110,000	
当期収入合計			3,829,489
II 支出の部			
事務局経費	1,000,000	838,695	
理事会費用	50,000	0	
第 19 回大会情報保障費	150,000	286,985	
第 19 回大会開催費	200,000	1,135,164	
編集委員会費	50,000	0	
研究企画委員会費	150,000	118,823	
学会誌発行制作費			
第 17 号 : 印刷・発送費	1,150,000	959,376	
第 17 号 : 制作費	150,000	120,000	
過年度学会誌送付代	60,000	82,016	
第 18 号 : 印刷・発送費	1,150,000	1,374,208	
第 18 号 : 制作費	150,000	203,060	
過年度年学会誌送付代	60,000	27,072	
国際活動費	150,000	181,600	
20 周年出版事業費	300,000	108,000	
20 周年記念 SDS 共催費	200,000	0	
その他	0	6,820	
当期支出合計			5,441,819
当期収支差額			-1,612,330
前期繰越収支差額			6,746,374
次期繰越収支差額			5,134,044

以上の会計報告に誤りのないことを確認しました。

2023 年 9 月 5 日 会計監査 木口恵美子、鈴木良

③ 障害学会第 19 回大会 (同志社大学) 会計報告

2022 年度障害学会第 19 回大会決算 大会長・廣野俊輔

【収入の部】

参加費収入 285,000

内訳 発表者として参加 30 人×3000 円=90,000 円

一般参加者 1500×111=166,500 円

当日に徴収した参加費

3000 円×2 人+1500 円×13 人=25,500 円

参加者 156 名

助成金（同志社①） 150,000 同志社大学社会学会助成金

助成金（同志社②） 100,000 同志社大学学会開催助成金

助成金（村田財団） 0 【こちらは立命館大学で管理 950,000】

学会負担 797,149 大会校収入だけでは不足する金額

合計 1,332,149

【支出の部】

ZOOM ウェビナー契約 0 グラフィエにホストをお願いしたため、グラフィエの費用に含む

ZOOM ウェビナー運営【株式会社 KYO-ZON Kyoto グラフィエ】 858,000

同時通訳【SIMUL】 0 【生存学研究所の負担】 718,330 円

手話通訳【ミライロ】 204,485 【生存学研究所の負担 71,890 円控除後の価格】

文字通訳【ゆに】 0 【生存学研究所の負担】 159,780 円

会員登録システム【ガリレオ】 71,664

アルバイト（立命館大学） 198,000

合計 1,332,149

■ 【第 2 号議案】 2023 年度事業計画案および予算案

①事業計画案

理事会：2023 年 4 月 22 日（土）第 45 回理事会 Zoom

2023 年 7 月 31 日（月）第 46 回理事会 Zoom

2023 年 9 月 7 日（木）第 47 回理事会 Zoom

理事選挙の実施：2023 年 7 月 3 日（月）～7 月 18 日（火） *実施済み

学会大会：第 20 回大会 2023 年 9 月 16 日（土）17 日（日）東京大学 大会長・熊谷晋一郎理事

編集委員会：『障害学研究』第 18 号の発行、第 19 号の編集

国際委員会：障害学会の活動の国際化推進事業

20 周年記念事業：出版 WG：20 周年記念誌の編集・発行

20 周年シンポ企画 WG：シンポジウムの企画・運営

合理的配慮ガイドライン WG：障害学会合理的配慮等ガイドラインの策定

広報委員会（新設）：会員一斉メールによる情報提供、HP 更新等の、学会の広報活動を担う。

アクセシビリティ委員会（新設）：学会の情報保障や合理的配慮、環境整備等にかかわる取り組みを担う。

倫理規程 WG（新設）：学会の研究活動にかんする倫理規程を検討する。

ニュースレター：2023 年 6 月に、会費納入依頼およびニュースレターを郵送、メール配信

②2023 年度予算案

【収入】

繰越金	5,134,044 円	
学会費	2,656,000 円	納付率 80% (= [一般] 400 名×7000 円+ [割引] 130 名×4000 円)
第 20 回大会収入	800,000 円	
助成金収入	1,240,000 円	
収入計	9,830,044 円	

【支出】

事務局	1,000,000 円
理事会	50,000 円
研究企画委員会	50,000 円
編集委員会	50,000 円
国際委員会	210,000 円
広報委員会	60,000 円
アクセシビリティ委員会	50,000 円
20 周年記念事業委員会 出版 WG	1,600,000 円
20 周年記念事業委員会 シンポ WG	100,000 円
第 20 回大会情報保障費	600,000 円
第 20 回大会支出	400,000 円
学会誌 (19 号)	1,300,000 円
過年度年会費支払会員向け学会誌送付代	60,000 円
予備費 (繰越予定金)	4,300,044 円
支出計	9,830,044 円

■ 【第 3 号議案】 選挙結果および第 11 期理事会について

①第 11 期理事選挙結果の報告

障害学会第 11 期理事選挙の結果を下記の通り、報告する。

選挙管理委員会 高森明・増田洋介・山下幸子

実施期間：2023 年 7 月 3 日 (月)～7 月 18 日 (火)

投票結果

選挙人：433

投票者：91

総投票数：728

有効投票数：646

白票数：82

順位	氏名	得票数
1	石川准	31
2	熊谷晋一郎	29
3	立岩真也	27
4	田中 (長岡) 恵美子	25
5	長瀬修	20

- 5 福島智 20
5 山下幸子 20
8 岡部耕典 19
次点1 深田耕一郎 19

同数（19票）が2名あったため、抽選を実施した結果、上記1名が当選となった。
福島智会員が就任を辞退されたため、次点の深田耕一郎会員に就任を依頼したところ、受諾された。
また、立岩真也会員の逝去に伴い、次点の市野川容孝会員に就任を依頼したところ、受諾された。

②第11期 補充理事の推薦

理事選出規程第1条により、「選挙によって選出された理事の合議」によって理事を補充することができる。
選出理事の合議により、以下の会員が理事に推薦された。就任を依頼したところ、受諾された。

伊東香純
川島聡
瀬山紀子
西倉実季
廣野俊輔
堀田義太郎
矢吹康夫

③第11期理事会について

選挙結果と補充の推薦を受け、11期理事会の構成は以下の通りとなる。

【理事】

石川准
市野川容孝
伊東香純
岡部耕典
川島聡
熊谷晋一郎
瀬山紀子
田中（長岡）恵美子
長瀬修
西倉実季
廣野俊輔
深田耕一郎
堀田義太郎
矢吹康夫
山下幸子

【会長】石川准

【事務局長】廣野俊輔

障害学会 11 期理事会は会計監査として、増田洋介会員および與那嶺司会員を推挙する。

【会計監査】 増田洋介、與那嶺司

■ 【第 4 号議案】 障害学会 合理的配慮等に関するガイドライン 1.0 について

合理的配慮ガイドライン WG 山下、熊谷、川島

合理的配慮等に関するガイドライン 1.0

1. 目的

本ガイドラインは、障害学会（以下、本学会という）の事業活動における障害のある会員及び非会員（以下、障害者という）に対する差別の解消に関し、合理的配慮等の必要な事項を定めることにより、本学会会則第 2 条に定める本学会の目的の達成に資することを目的とする。

2. 障害者差別の解消

本学会は、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成 25 年法律第 65 号）その他関係法令を遵守し、本学会の事業活動において障害者差別を行わず、障害者差別の解消を推進する。障害者差別とは、障害者に対して不当な差別的取扱いをすることと合理的配慮を行わないことをいう。

3. 不当な差別的取扱い

不当な差別的取扱いとは、本学会が障害を理由に正当な理由なく障害者を非障害者より不利に扱うことをいう。正当な理由に相当するのは、障害者を不利に扱うことが客観的に見て正当な目的の下に行われたものであり、その目的に照らしてやむを得ないと言える場合である。本学会は、正当な理由があると判断した場合には、障害者にその理由を丁寧に説明し、理解を得るよう努める。

4. 合理的配慮

本学会は、個々の場面において特定の障害者から現に社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があった場合に、建設的対話を通じて合理的配慮を行う。合理的配慮とは、本学会が特定の障害者個人のニーズに応じて過重な負担のない範囲で行う社会的障壁（物理面、情報コミュニケーション面、制度面等の障壁）の除去であって、障害者の意向を十分に尊重し、非障害者との機会平等を実現し、本学会の本来業務に付随し、かつ、本学会の事業活動の本質的部分を変更しないものをいう。社会的障壁の除去が本学会にとって過重な負担に当たるか否かは、当該除去の事業活動への影響の程度、当該除去の実現可能性の程度、当該除去の費用・負担の程度、及び本学会の事業規模・財政状況を総合的に考慮に入れて、具体的・客観的に判断する。本学会は、過重な負担に当たると判断した場合は、障害者に丁寧にその理由を説明し、理解を得るよう努める。

5. 事前的改善措置（環境の整備）

本学会は、事前的改善措置を積極的に講じる。事前的改善措置とは、本学会があらかじめ不特定多数の障害者を主な対象として社会的障壁を除去しておくことをいう。

6. 研究大会及び総会

本学会は、研究大会及び総会の開催に当たり、開催校と協力して事前的改善措置を講じるとともに合理的配慮を行う。本学会は、手話通訳及び文字通訳を確保し、休憩室を準備し、障害者の支援者の研究大会及び総会への参加を無料とする。また、本学会は研究大会及び総会の資料のアクセシビリティを確保する。

7. 理事会及び理事選挙

本学会は、理事会の開催及び理事選挙の実施に当たり、事前的改善措置を講じるとともに合理的配慮を行う。本学会は、理事会を対面型で開催する場合には、障害のある理事の支援者に交通費及び宿泊費が必要となるときはこれらを支給するとともに、理事の希望によりオンライン参加を認める。また、本学会は理事会及び理事選挙の資料のアクセシビリティを確保する。

8. 学会誌

本学会は、出版社と協力して事前的改善措置を講じるとともに合理的配慮を行う。本学会は、障害者が自身に配布された学会誌又は自身が購入した学会誌を読む際の社会的障壁の除去のために必要かつ適切な場合には、当該障害者にテキストデータを無償で提供する。

9. ホームページ

本学会は、ワールド・ワイド・ウェブ・コンソーシアム (W3C) のウェブコンテンツ・アクセシビリティ・ガイドラインに準拠して、本学会のホームページ<<http://www.jsds.org/>>の情報を適切に構造化して表示するなど当該ホームページのアクセシビリティを確保する。

■ 2 報告事項

■ 1 2023年度第20回大会について

障害学会設立20周年の記念大会と位置づけ、対面（一部ハイブリッド）で2日間、開催する。

日 程：2023年9月16日（土）・17日（日）

会 場：東京大学駒場第2キャンパス

大会長：熊谷晋一郎

形 態：自由報告とポスター報告は対面形式、基調講演とシンポジウムのみ対面形式+オンライン配信
プログラム：

1日目：9月16日（土曜）

13時00分：大会長挨拶

13時20分：ポスター報告

14時40分：自由報告

17時20分：基調講演 石川准（障害学会会長）・熊谷晋一郎（第20回大会大会長）

「障害学会20周年記念対談——前に進むこと、置き去りにしないこと」

2日目：9月17日（日曜）

9時30分：自由報告

12時15分：総会

13時00分：ポスター報告

14時15分：シンポジウム 障害学の回顧と展望 社会モデルの現在

シンポジスト

川島聡（放送大学教授）

「社会モデルと人権モデル—権利条約時代の障害学・再論」資料（Word）

飯野由里子（東京大学大学院教育学研究科特任准教授）

「インターセクショナルリティを意識した障害学研究のために」資料（PPT）

辰巳一輝（大阪大学大学院博士課程院生）
「批判的障害学と「社会モデル」資料（PPT）
コーディネーター
星加良司（東京大学大学院教育学研究科教授）

（大会長：熊谷晋一郎）

■ 2 編集委員会から 『障害学研究』 について

- ・ 第 18 号『障害学研究』の発行について（2023 年 2 月刊行）
- ・ 第 19 号『障害学研究』の発行について（2023 年 12 月刊行を目標）
- ・ 第 20 号『障害学研究』 ※20 周年特別号として 2024 年 3 月末に刊行予定（出版事業 WG の報告を参照）
- ・ 第 21 号『障害学研究』の編集準備について（投稿論文は 2023 年 9 月 30 日投稿締切）

（委員長：堀田義太郎）

■ 3 国際委員会から

【2022 年度 活動報告】

1. 国際委員会エッセイコーナー（障害学の風）の開設
年度内に委員による 5 本のエッセイを掲載した。
2. 学会員向けに国際委員会からの情報提供
広報担当の多大な協力を得て、国際関係の配信を 28 本行った。
3. 米国の障害学会（SDS）大会へのオンライン参加
2022 年 4 月 10 日の SDS（米国障害学会）大会の全体会にて石川准会長と長瀬修国際委員長が講演を行った。
4. 学会大会企画の国際化
第 19 回障害学会大会（同志社大学）においてヨナス・ラスカス教授（リトアニア国立ヴィータウタス・マグナス大学教授・国連障害者権利委員会副委員長）の基調講演の実現と講演録記録のとりまとめに取り組んだ。
5. 新委員の加入
ミトー・アンヌ＝リーズ（パリ・ディドロ大学）が新たに委員として加わった。

【2023 年度 活動計画】

1. 国際委員会エッセイコーナー（障害学の風）の継続
2. 国際委員会からの情報提供の継続
3. 障害学国際セミナーの共催
韓国障害学会が主催し、「情報化社会におけるユニバーサルアクセス（障害者権利条約第 9 条）」をテーマとして 2023 年 10 月 27 日・28 日にソウルにて開催される障害学国際セミナー2023 を共催し、口頭報告者として石川准会長が報告するほか、ポスター報告者を募集する（費用は参加者負担）。
4. 『障害学研究』において、国際委員会による新たな取り組みとして、国際委員による非日本語文献の紹介コーナーを設置する。
5. その他、学会の国際的連携の推進
英国リーズ大学アンハラッド・ベケット教授（International Journal of Disability and Social Justice 編集長）を講師とする研究会の開催

（委員長：長瀬修）

■ 4 20 周年記念事業実行委員会から

①出版事業 WG

【2022 年度活動報告】

障害学会創設 20 周年を記念する書籍の刊行を目指し、会長、事務局長、WG で、書籍刊行の方法や内容、情報アクセシビリティ等に関する議論を重ねてきた。

書籍は 3 部構成をとっている。2023 年 2 月には各部ごとの執筆者同士でオンラインでの中間報告会を開催した。情報保障等に係る費用については、外部資金を獲得し、それを充てている。

【2023 年度活動計画】

2024 年 3 月末日までの刊行を目指し、活動を進める。執筆者同士の進捗状況の確認等を行いながら、学会 20 周年を記念する書籍の刊行に向けていく。

(WG リーダー：山下幸子)

②シンポ WG

【2022 年度活動報告】

2022 年 7 月 30 日の理事会にて、20 周年記念事業実行委員会の下に、20 周年記念大会企画ワーキンググループ（以下、企画 WG）の発足が決定され、石川准（20 周年記念事業実行委員会委員長）、長瀬修（企画 WG リーダー：国際委員長）、熊谷晋一郎・岡部耕典（研究企画委員）、山下幸子（20 周年記念出版企画リーダー）、堀田義太郎（編集担当）、川島聡（渉外担当）、田中恵美子（国際委員）をメンバーとした。このメンバーで、2023 年度の 20 周年記念大会での、「障害学の回顧と展望：社会モデルの現在」と題するシンポジウムの準備を進めた。

【2023 年度活動予定】

企画 WG は「障害学の回顧と展望：社会モデルの現在」と題するシンポジウムを 20 周年記念大会の一部として、2023 年 9 月 17 日午後 2 時 15 分から 3 時間、以下の内容で開催する。

「障害の人権モデルと社会モデル」川島聡（放送大学教授）

「交差性・クリップセオリーと社会モデル」飯野由里子（東京大学大学院教育学研究科特任准教授）

「批判的障害学と社会モデル」辰巳一輝（大阪大学大学院博士課程院生）

コーディネーター 星加良司（東京大学大学院教育学研究科教授）

(WG リーダー：長瀬修)

■ 5 2024 年度 第 21 回大会について

2024 年度第 21 回障害学会大会は、堀田義太郎理事を大会長として、東京理科大学において、開催を予定しています。開催日時やプログラムについては、後日、HP・メール等で告知いたします。

(第 21 回大会長 堀田義太郎)

■ その他

・ 10 期理事会の任期満了

2023 年度総会において 10 期理事会は任期満了となり、理事は退任する。

以上